

芸術・文化による現代版「足利学校」創造プロジェクト
～アートでつなぐ、学びのこころ～

足利市民会館・専属

『足利オペラ・リリカ』

音楽監督：大隅智佳子

発足計画

1 足利オペラ・リリカ発足計画策定の経緯

足利市民会館では、これまで、優れた舞台芸術の鑑賞・体験機会の提供の他、市民参画創造事業に積極的に取り組んでまいりました。

特に、近年、舞台総合芸術である「オペラ」においては、21年度の市民オペラ「ラ・ボエーム」、22年度の子どもたちが主役となったオペラ「夕鶴」と、2年連続でのオペラ公演の開催と言う、これまでにはないオペラに親しむ機会がございました。

そして、これらオペラへの市民皆様の関心の機運を大切にして、今後とも定期的にオペラに親しむ機会や参加する機会の環境を充実させるべく、市民に直結したプロ「オペラアンサンブル」発足の必然性を感じ、平成24年度から1年を要して、栃木県内「初」の会館・専属オペラアンサンブルの発足を目指すこととなりました。

運営に当たっては、幸いにも、平成21年度ならびに22年度の2つのオペラに関わっていただきました旧実行委員会の皆様の賛同を得て、市民の手によって運営するプロ「オペラアンサンブル」の誕生となります。

2 足利オペラ・リリカのミッション

- ①市民ならびに地域文化の革新と醸成
- ②新たな地域コミュニティ形成による足利創生
- ③子どもたちの芸術環境づくりと社会的弱者の心の支援
- ④未来の人材育成

3 活動内容

- ①芸術・文化（合唱・オペラ）の鑑賞・体験による「活力と潤い」のある文化的生活の実現
- ②芸術・文化（合唱・オペラ）への参画・運営をとおしての市民交流機会の提供
- ③芸術・文化（合唱・オペラ）の鑑賞・体験をとおしての青少年及び社会的弱者への支援
- ④芸術・文化（合唱・オペラ）をとおしての青少年の情操的成長及び人間力の向上

<概要>

名称：『足利オペラ・リリカ』

団員条件：研究科修了生及び35歳までの将来プロフェッショナル活動を目指す方

選考：オーディション

団員人員：20名

※発足後の、新メンバー選考については、オーディションによりその都度選考するが、基本的に1年間の試用期間を経て、正式メンバーとする方式を取りたい。

<運営体制>

音楽監督	：大隅智佳子氏
運営委員長	：久保田健一氏（市民）
副委員長	：直井文子氏（市民）
運営委員（市民）	：八木祐子氏・浅野幸恵氏 生田千津子氏・新井和子氏
専門スタッフ	：杉田明日香
研修スタッフ	：西巻平（東京藝術大学音楽学部声楽科4年）
事務局	：財団法人足利市みどりと文化・スポーツ財団 （足利市民会館・事業担当）

<芸術団体の運営協力団体> 東京藝術大学（オペラ公演時）

■ 足利市民会館・専属『足利オペラ・リリカ』

音楽監督 大隅智佳子（ソプラノ歌手）プロフィール

1980年神奈川県出身、千葉県在住。東京藝術大学音楽学部声楽科ソプラノ専攻科首席卒業。

同大学院修士課程オペラ科修了、博士後期課程音楽研究科オペラ専攻科修了、学位取得

（音楽・演奏博士）。二期会オペラ研修所プロフェッショナルコース第7期修了

大学3年在学時に安宅賞受賞。大学卒業時に松田トシ賞、アカンサス音楽賞受賞。

学部首席卒業の栄誉として、皇居・桃華楽堂における宮内庁主催御前演奏会に出演。

また2004年12月には外務省主催天皇誕生日祝賀会に於いて大学代表として国歌斉唱。

東京藝術大学同声会主催同声会新人演奏会出演、並びに同声会賞受賞。

東京藝術大学オーケストラ定期新卒業生紹介演奏会に出演、藝大フィルハーモニアと共演。

東京藝術大学主催・奏楽堂における「うた」シリーズなどの学内の演奏会に多々出演。

2004年11月にはオーディションに合格し、藝大定期演奏会にて

ドヴォルジャーク作曲「レクイエム」ソプラノ・ソロとして出演。（H・M・シュナイト氏指揮）

オペラでは東京藝術大学大学院定期オペラ公演においては第49回、第50回のモーツァルト作曲

オペラ「フィガロの結婚」伯爵夫人役と、「コジ・ファン・トゥッテ」フィオルディリージ役

（共にハンス・M・シュナイト氏指揮）にて2年連続、第53回のプッチーニ作曲「ボエーム」

ミミ役（現田茂夫氏指揮）として出演した。

在学中より学外における演奏活動を開始。オペラ公演においては、2003年に

横浜市民オペラ主催ビゼー作曲「カルメン」ミカエラ役にてオペラ・デビューの後、

2006年1月にヘンデル作曲「セルセ」ロミルダ役にて新国立劇場小劇場にデビューし、

同年7月には新国オリジナル子供オペラ「スペース・トゥーランドット」ラベンダー姫（リュウ）

にて中劇場にも登場。オペラ劇場上演演目の主要キャストのカヴァーも務め、2010年には

R.シュトラウス作曲「影のない女」鷹の声役にて出演も果たした。

2007年1月に東京オペラ・プロデュース主催による新国立劇場中劇場にて、シャルパンティエ

作曲「ルイズ」タイトルロールにて原語日本初演に挑戦し絶賛され、2008年2月には同プロ

ダクション主催によるワーグナー作曲「妖精」アード役にて日本初演に挑戦し、その表現力と

強靱な声は新聞などで高く評価された。2008年9月にはチャイコフスキー作曲「エフゲニー・

オネーギン」タチアーナ役にて二期会本公演デビューを果たし、大型新人として高く評価された。

また2009年5月に自ら博士としてのオペラ研究を兼ねて自主企画を発案、カタラーニ作曲

「ラ・ワリー」を本邦本格初上演として行い、タイトルロールだけでなく企画発案・運営などを

行いその多才さを発揮。オペラ歌手の研究公演として高い評価を得た。

他レパートリーとして、チマローザ作曲「秘密の結婚」エリゼッタ、モーツァルト作曲「フィガロ

の結婚」スザンナ、「イドメネオ」イリア、ドニゼッティ作曲「アンナ・ボレーナ」アンナ、

ベッリーニ作曲「ノルマ」ノルマ、ヴェルディ作曲「椿姫」ヴィオレッタ、「シモン・ボッカネグラ」

アメーリア、「ルイザ・ミラー」ルイザ、「リゴレット」ジルダ、「オテッロ」デズデモナ、プッチー

ニ作曲「トゥーランドット」リュウ、「修道女アンジェリカ」アンジェリカ、レオンカヴァッロ作曲

「道化師」ネッダ、アルファーノ作曲「シラノ・ド・ベルジュラック」ロクサーヌ、グノー作曲

「ロメオとジュリエット」ジュリエット、ビゼー作曲「美しいパースの娘」ロマの女王マブ、R.

シュトラウス作曲「薔薇の騎士」ゾフィ、シューベルト作曲「サラマンカの友人たち」オイゼビア

(日本初演) など。

近年では 2010 年 1 月の東京オペラ・プロデュース主催公演、ジョルダナーノ作曲「マダム・サン＝ジェヌ」(日本初演) カテリーナ役にて出演し、歌唱力、演技力共に非常に高い評価を得た。同年 10 月 N 響定期公演「アイダ」では世界的巨匠ネルロ・サンティの指揮の下で女祭司長役を演奏しその美声は聴衆に強い印象を残した。2011 年 2 月には二期会本公演にて R.シュトラウス作曲「サロメ」タイトルロールで出演。鬼才と名高い天才演出家 P.コンピチュニー氏演出の舞台において難役サロメ役を演じきり、抜きん出た歌唱力、表現力を絶賛された。

宗教曲などのソリストとしても活動し、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト、ヴェルディ、ドヴォルジャーク、フォーレの「レクイエム」、ハイドン、ドヴォルジャークの「スタバト・マーテル」、ヴェルディ「聖歌四編」、ベートーヴェン「第九」、ヤナーチェク「グラゴール・ミサ」、ストラヴィンスキー「結婚」、ブリテン「戦争レクイエム」、ラター「レクイエム」「マニフィカト」、などのレパートリーを持つ他、C.シェーンヘル「マニフィカト」(日本初演)、ドブロゴス「レクイエム」といった現代曲作品にも果敢に挑戦している。

N 響をはじめ、東京フィル・ハーモニー、東京交響楽団、東京都交響楽団、新日本フィル、日本フィル、名古屋フィル、大阪フィルなどプロ・オーケストラとも多数共演。

2003 年 6 月松田トシ賞受賞記念リサイタル、同年 7 月長野県にてソロ・リサイタル、

2004 年 4 月 JT アートホールにてアフタヌーンコンサートとしてミニ・リサイタルなど

演奏活動の他、自主オペラ公演企画や音楽プロジェクトなど自らのオペラ研究を兼ねたオペラ制作活動も行っている。2004 年、2005 年にシューベルトのオペラ本邦初演企画、2007 年芸大奏楽堂にて博士リサイタルとして歌劇「椿姫」を企画・運営・制作を行い、主役として出演し成功。芸大オペラの地方外部公演企画や個人オペラ団体の企画・制作なども積極的に行っている。現在は音楽グループ OHSUMI&PRODUCE を主宰し、若手声楽家による定期的なコンサートなどの公演を行っている。

これまでに声楽を辻宥子、嶺貞子、大森園子、直野資の各氏に師事。

イタリアにおいてはマヌエラ・クリスチャック氏に指導を受けた。またコレペティのレッスンを S.ローチ、G.クリスチャック、A.トレムメル各氏に受ける他、イタリアにおいて F.コンソリ氏の指導を受けた。またロシア作品を山下健二氏に師事。二期会会員。

2010 年 9 月、足利市民会館・クリエイティブ・アーティストティック・パートナー就任。